

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ありがとう一番町 2階		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町村受理日	平成28年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JirvosvoCd=2294200528-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は事業所の基本理念を基に皆で考えたホーム理念「その人らしく 笑顔で住みやすい家 ありがとう一番町」に沿って、質の向上を目指し取り組んでいる。ホームの裏にある公園の清掃活動の参加、住宅街の中の由緒ある神社へ散歩しながら参拝。夏祭りでは町内の方も来られ、利用者と一緒にゲームを楽しむ等、地域との関わりや交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住吉公園の大木や遊具の周りを走り回る子どもたちを見下ろせる場所に事業所はあります。利用者も眺めることを楽しみにしていて、羽の色の違う鳩を見出し「さだこ」と名付けて親しむほどです。各ユニットにつながる階段の壁には洒落た写真ギャラリーが拡がり、また年に1度の事業所まつりにはちらし寿司、たこ焼き、冷汁粉を手作り披露してと、職員が得意な面を諸所活かしています。My熊手持参で毎月の地域清掃に出る利用者もおり、熊本へ被災視察を経験した町内会長は「コミュニケーションが大事」「学区のお祭りをやってみようか」と地域ネットワークに熱心で、その話が運営推進会議で出ていることに期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活できるようホーム会議などで話し合いを持つようにし、実践に繋げている。	職員は穏やかな雰囲気でありながらも挨拶がしっかりでき、利用者も安心して過ごしている様子が観えます。一人ひとりの性向や趣に合せた言葉がけができていることに管理者は理念の実現を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月の公園掃除や町内の敬老会に参加したり、散歩のときに近所の人に会うと挨拶したり世間話をしたりしている。	町内の敬老会、輪くぐり、市民活動センターの周年まつり等に出向く一方で、事業所のまつりにも20名ほどの来訪者があります。以前公園整備を仕事としていた人はMy熊手、軍手を購入するとともに、仲間も誘って毎月隣にある公園の清掃に勇んででかけ、町内会長とも顔見知りです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや各事業所、地域、病院等との交流を深め協力体制が取れるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。目標としていた家族の参加も実現している。	偶数月の第三月曜日を開催日と定め隔月実施しており、また連合会の会長も兼務する町内会長は交替もなく、多忙ななかでも出席くださっています。前回課題としていた家族参加には前進があり、利用者本人は変わらず出席しています。	家族参加も少しずつ進んでいますが、基本的に人数は見込めない状況にありますので、さらなるメンバー開拓とともに勉強会や避難訓練との併催による開示活動を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回、介護相談員や権利擁護センターの方が訪問に来て面談をしている。生活支援課から生活保護を受けている方の面談も行われている。	地域包括支援センター職員は毎回の運営推進会議への参加とともに、「事故報告もしたほうが～」と貴重な助言もくださいます。事業所では生活保護者を快く受け入れ、生活支援課の意向に協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしている。玄関は施錠せず、カンファレンスを行いながらなるべく本人の意思を尊重するように心がけている。	法人主催の研修会が年間で定められ、全員が本件についても学んでいます。階段があるもののユニット施錠はなく、利用者もフロア内を自由に往来しています。職員の都合でセンターマットを導入することはありませんが、家族の了承を得て鈴をつけている利用者がいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連についてはホーム会議や申し送り話し合いや指導を受けながら学び理解するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方、希望される方には制度の説明も行っており、活用されている入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点などが解消できるよう事前に十分な説明をさせて頂き、理解してもらうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話にて要望や悩みを聞く事ができる関係が築けている。	「ありがとう新聞」のほかに担当職員の手書きの便りを家族へ月に1回郵送し、クスリの変更等やや急ぐ情報や回答が必要な場合には電話で伝えて理解を求めています。利用者からは「外へでたい」「買い物に行きたい」と直接の具申があるので、出来る限り応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやホーム会議で職員が色々と意見を出し話し合いを設ける環境作りができています。	委員会活動はやや形式的になり課題ですが、カンファレンスには良い意見がでています。必要なものがあれば職員が自宅から提供してしまう状況も間々ありますが、管理者が法人本部とのパイプとなり、予算の要る物品購入について申請が通るよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの頑張りを評価し就業規定を基に向上心を持って働けるよう考慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部の研修に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は取りづらい状況ではあるが外部研修の機会などを利用し情報交換する事もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望など本人の思いを傾聴し安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解、傾聴し出来る限りの対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のそれぞれが必要としている支援を相談しながら柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の楽しみや好きな事、できる事を見つけ不安を理解し支え合える関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ本人の様子を家族に伝え協力体制を作り、よりよい関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方ではあるが、これまでの生活習慣や外出などが維持できるよう家族の協力を得ている。	新聞は地元の馴染みのものを事業所でとっており、毎日習慣として目を通す人、「職員の制服をあげたくなる」ほど掃除を丁寧におこなってくださる人、「工場長」と呼称がついてゴミ袋だたみに尽くす人、それぞれの趣を継続できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの個性を生かし、それを理解し利用者同士の関係が円満、円滑になるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事があればいつでも力になれる事を家族に伝え、信頼関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりをよく観察し、考え方や希望を把握する事で本人の意に添うよう努めている。	「私はここに40年居るけど1度も外へでていない」と驚く内容を介護相談員に告げる人もいますが、そういったときは意識して回数を増やして想いに副っています。着衣を2種類用意して「どちらにする?」と尋ねたりと、選ぶ機会をつくることも配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境を考慮した上で、本人や家族、訪問者との会話を通して今までの暮らしを熟知するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の過ごし方と心身の状態に気を配り、小さな変化も見落とさない様に努めて努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに暮らせるよう常にカンファレンス等を行い、職員全体で考え話し合い現状に合った介護計画書を作成するよう努めている。	モニタリング表は計画作成担当者(2階は介護支援専門員が兼務)が記録や居室担当職員からの聴取によって作っており、介護支援計画書も同様です。最終的には介護支援専門員が集約して書面化しています。サービス担当者会議は事業所職員のみでおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を細かく記入し情報の共有をはかり、職員全体で入居者達の生活状況や問題点を周知し対応できる様に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や不安に対し柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日や体調が良い時は公園や近場へ散歩に出掛け近隣の方々と会話を楽しんでいる。地域での清掃活動や防災訓練などにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が24時間体制の医療機関を掛かりつけ医としている。日頃の状態を良く観察し報告する事で適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回訪問診療くださる協力医に全員が変更しています。協力医は専門医など他医院にかかる場合は診療情報提供書を準備くださり、付き添いは基本的に家族にお願いしています。訪問看護が週1回訪れ、健康管理面を中心にアドバイスくださっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調の変化に気を配り細かく観察。主治医や看護師へ報告し指示を仰ぎ適切な処置や支援を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と常に連携を取り、本人にとっての適切な方向性を関係機関全体で相談し情報交換をしながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を伺い、対応できるケアについて契約時に説明している。終末期のケアについては、その状態になり希望された場合関係機関でチームを組み対応している。	看取りをおこなう事業所として家族、職員は承知しており、ここ2年で5名お見送りしています。「30分～2時間に1回は訪室を」「声かけて」「唇を濡らして」と誠実に取組み、「何があるからわからないからこそ今日が大事」との認識をあらたにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時など緊急時マニュアルに沿って対応している。その後はホーム会議や申し送り意見交換している。実践研修も取り入れて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の防災訓練に参加している。ホームでも年に2回基本的に全員参加で(入居者、職員)防災訓練を行っている。	年2回の法定訓練をおこない、計画書提出の折には窓口で消防署員に直接意見を仰ぎ、「すぐできることとして」自宅から近い順の連絡網を作成しています。また地域との関係は良好で、有事には助け合うことが言い交わされています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレ、入浴等の介助の際は扉を閉めるなど個人のプライバシーを尊重した対応を心掛けている。	介護度1の利用者から指摘を受けることもあり、いい意味ではお嫁さんの対応で、ややもすると押れあい危険されますが、いたわる気持ちがあることは伝わります。本人希望で「○○ちゃん」と扉に書かれている居室もあり、本人本位でこなっています。	食事中にトイレの扉が半開きだったり、オムツをそのまま共用空間に持ち出していますので、一度職員間で本件に係る内容を話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりの気持ちを聞けるよう心掛けている。お客様が自己決定できる様な言葉選びに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員からの声掛けや提案だけでなくお客様本人がやりたい事を見つけ、それを支援している。体調に気を配り、実行していけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様にご自分で衣類を選んでいただいている。職員からは天候や陽気のアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり巻きやテーブル拭きなどお手伝いをしている。季節感のあるメニューや盛り付けの工夫を行っている。	食材を業者から入れ職員が調理しています。作り方に出来上がりの写真が付き、大変分かり易い献立です。主菜、副菜2品でボリュームある内容ですが皆さん「美味しい」を連呼され、完食です。またおやつにはミニドーナツなどできるだけ家庭的な手づくりのものが提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分量を把握し出来る限りお客様1人1人に合った食事の提供をしている。苦手な物も少しでも食べていただけるような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛け見守りを行い、介助の必要な方にはその方に必要な口腔ケア用品を使用している。口腔ケアのセットは毎日除菌消毒している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に2時間を目安に声掛け誘導している。頻回の方はその都度対応している。お客様の状態に合わせてリハビリパンツやパッドの使用を検討し支援している。	足腰の訓練を兼ね昼間は付き添われてトイレまで歩く人も夜間は車いす移動とし、そのときの状態に合わせています。お尻が小さい人には幼児用便座を用意し、また起床時に朝の水分補給として牛乳などを飲み、スムーズな排泄にもつながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供の際なるべく消化の良い食事形態や水分を多めに摂れるよう心掛けている。必要に応じ牛乳を提供したり、主治医の指示を仰ぎ薬の服用をすることもある。朝は体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、安心安全を確認してから入浴している。体調不良の方に対しては清拭等をして清潔保持をしている。貴重な個別の時間なので関わりを密にするよう心掛けている	春秋は多少散歩を優先しますが、週2～3回の入浴を目安としています。脱衣室は狭小ですが、廊下にパーテーションを置いての着脱、着衣をおこなったり、また棚なども職員努力での整理整頓が成されています。好みのシャンプーを備えていたり、歌をくちずさんで楽しむ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、就寝時間は強制せずその時々に合わせて支援をしている。不眠の方は主治医に相談し薬の検討、服用をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が1人1人の服薬状況を把握できる様薬情をファイリングし周知徹底を心掛けている。状態によっては薬の変更もあるがその都度情報を共有し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の楽しみやできる事、やりたい事などを見極め趣味やお手伝いをしていただき、張り合いや喜びのある日常を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や気分に合わせて散歩へ出向くようにしている。ホームの周りを一周しながら普段話さないようなお話を傾聴しつつ気分転換に繋がるよう心掛けている。	春と秋は「少しでも外の空気を」との想いから「5分でも10分でも」戸外散歩を続けています。年間企画としては住吉神社の初詣、桜餅を食べながら桜の花見などがあります。なかには近所だった人が旅行に誘ってくださったり、家族が毎週外食に連れだしてくれたりという人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で必要に合わせ使えるように支援している。基本的にはホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人、本人の希望に合わせやり取りできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下では車いすやシルバーカーの方などが行き来しやすいう配慮している。空調を緩めに設定し温度調整を衣服で行うようにし、少しでも季節を感じてもらおう心掛けている。	階段廊下には写真館さながらの職員手作りのギャラリーが拡がり、訪れた人も思い出を共有できます。建物そのものは旧いものですが、5Sと掃除に長けた利用者と職員のタッグで、大変清潔です。	①車いすの車輪跡かと思いますが、壁の下方が削れている箇所がいくつかあります。早めの修繕を期待します。②ナースコールがやや大きいように感じます。一度検討願います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居心地の良い場所で安心して穏やかに過ごせるよう、1人1人のそれがどこなのか考えながら支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた馴染みの物や大切にしていた物を持ってきて下さるよう家族に協力をお願いしている。	ベッドは基本持ち込みですが、家族の申し入れがあれば法人からの有料貸出も可能です。掃除機を居室に持ち込み、一人で諸所片づけをおこなう利用者也視認しました。フェルトや折り紙でのアクティビティ作品を壁一面に貼りだしている居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助が必要な方も使いやすいようトイレや洗面所のスペースは広めである。安心安全のため手すりも設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ありがとう一番町 3階		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町村受理日	平成28年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JirvosvoCd=2294200528-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は「その人らしく 笑顔で住みやすい家 ありがとう一番町」というホーム理念に則り、介護の質の向上を目指し取り組んでいます。ホームの裏には公園があり、散歩に行くと笑顔で挨拶を交わして下さいます。又、年に1度ホームのお祭りイベントがあり、その際には近隣の方も足を運んで下さるので地域の皆様と馴染みになってきていると感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住吉公園の大木や遊具の周りを走り回る子どもたちを見下ろせる場所に事業所はあります。利用者も眺めることを楽しみにしていて、羽の色の違う鳩を見出し「さだこ」と名付けて親しむほどです。各ユニットにつながる階段の壁には洒落た写真ギャラリーが拡がり、また年に1度の事業所まつりにはちらし寿司、たこ焼き、冷し汁粉を手作り披露してと、職員が得意な面を諸所活かしています。My熊手持参で毎月の地域清掃に出る利用者もあり、熊本へ被災視察を経験した町内会長は「コミュニケーションが大事」「学区のお祭りをやってみようか」と地域ネットワークに熱心で、その話が運営推進会議で出ていることに期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念をホーム内に掲示して毎朝職員で唱和。実践にむけ取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	避難訓練、公園清掃、敬老会など参加できる行事には積極的に参加し地域との交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院や地域包括支援センター等と交流を持ち連携をとる。地域の方々との交流を深め、理解、協力が得られるよう努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、町内会、民生委員、家族、ホーム入居者も参加し2か月に1度開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員や福祉課の担当者とは連絡を取り合っている。現状やケアサービスについても相談し協力関係が築けていけるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じカンファレンス、担当者会議を行い問題点などを挙げプランの見直しをしている。「身体拘束0宣言」を遵守し玄関などの施錠はしていない。また、入居者の尊厳を守る事に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修の機会があれば参加し、職員全体で周知している。研修報告により理解を深め虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者個々の状況を把握し必要な方にはその都度説明している。現在活用されている方もいて定期的に面談されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まる前に契約に至る流れを説明させて頂き、不安や疑問などが解消できる様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが意見や要望は今の所無い。家族の訪問も多く、要望や意見など何でも話せる関係が出来ていると思われる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やカンファレンス、日々の申し送りなどでコミュニケーションを図り、意見などを言いやすく聞きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握し、就業規定を基に向上心を持って働けるよう給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の入れ替わりや異動などが続きなかなか落ち着かないが全体の力量の把握は出来ている。研修の機会を増やし質の向上に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会がなかなか無いため研修等に参加し、他事業所との情報交換を行う事で相互の訪問など交流を拡げて行きたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事など傾聴し信頼関係が築けるように心掛け、常に安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や苦労を考慮、傾聴し安心して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応としては本人と家族の不安を少しでも取り除けるよう配慮しながら必要な支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の馴染みや不安、楽しみなどを理解し共に支え合う環境作りを心掛け家族と同様な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子を伝え、その時々に必要な協力をお願いし共に支えあう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力してもらいながら本人のこれまでの生活習慣が維持できる様支援に努めている。知人など家族以外の訪問もあり良い関係も続いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性が強いので入居者同士の関係が円滑円満になるよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を大切に、必要に応じて相談事などにはいつでも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の希望、要求に応えられるように努めている。要求などが困難な場合は本人、家族と一緒に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族などからこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境の情報を収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、身体・心の状況を把握するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く穏やかに生活できる様、本人や家族からの希望や情報を集め、カンファレンス等で話し合いをし職員全体で考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議記録を活用し日々の様子などを記録に残し、職員間の情報を共有する。また、介護計画の見直しにも利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と関わりを持つだけでなく、本人が役割と感じている為に清掃活動や防災訓練に参加。散歩に出掛けた際には近隣の方々との会話を楽しむようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を大切に、家族へは日々の状態を詳細に報告、相談をして適切な医療が受けられるよう支援に努めている。夜間の急変にも対応できる医療機関を掛かりつけ医としているが希望があれば家族対応にて他の医療機関への対応もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も見逃さぬよう日々の健康管理に気を配り些細な事も情報として看護師に伝え相談しながら入居者が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と密に情報交換を行い状態を把握。また、入居者が安心して適切に治療を受けられるよう相談、情報提供、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族の意向を聞き、重度化や終末期の方針、対応を説明しケアについて話し合いを行っている。かかりつけ医等とチームとして支援に取り組んでいる。変化に備え、準備、検討を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で協力し合いマニュアルに沿って手当や初期対応をしている。その後は申し送りやホーム会議を活用し、全職員が状況を把握し対応できる様意見交換をして検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に緊急対応できるよう入居者も含め全職員で防災訓練を行っている。地域と協力体制が取れるよう地域の防災訓練にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人生と向き合い、人格とプライバシーを尊重し会話するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いやできる事を把握し自己決定できるような導きや働きかけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り思いに添った1日を過ごせる様に本人と話し合いその日を楽しく安心して頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で髪の設定を手伝ったり自分で服を選んでいる方も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「本日の献立」について皆で話したり食事の時間を楽しめるよう心掛けている。おしぼり巻きや下膳などお手伝いもお願いしている。季節を感じるメニューも取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量など毎日必ずチェックしている。水分量が足りない方は本人の好みを聞きなるべく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々のレベルに合わせた口腔ケアを実施、介助している。必要に応じ口腔ケアグッズを使用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の体調や排泄パターンを把握し誘導している。入居者からもパッドの汚染が防げて嬉しい、との声が聞かれている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起き掛けに牛乳や水分を摂ってもらう事や消化の良い食事形態で提供できるよう心掛けている。必要に応じ主治医と相談し薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調をチェックし確認してから入浴して頂く。お湯の温度や時間も本人と相談し、楽しいひと時を過ごしてもらうよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣や体力、体調を把握しその方々に合わせた休息や睡眠が取れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルし職員全員が周知できるようにしている。変更があった時はその都度情報の共有をし把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の得手不得手や生活歴などを見極め、その人に合った役割や喜びの提供ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調や希望を把握し、職員で対応不可能な時は家族の協力も得ながら外出の機会を設ける努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームの管理である。家族と外出する際、本人の希望があれば少額を渡し日用品を買う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からの依頼があれば手紙も電話も取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは本人の好きな場所で過ごしてもらえよう配慮している。ひな人形や五月人形など季節を感じる物を置いている。排泄物の臭いがしないよう消臭スプレーを利用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が好む場所で過ごして頂く。仲の良い人同士でソファーに座り談笑する姿が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトは本人と家族が居心地良い場所となるよう今まで使っていた物や大切な物などを置いてもらうようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	浴室、トイレには手すりを設置し自立の方も介助の方も、安心安全に使用できる様にしている。		